

和書門類  
一〇三七三號  
函架冊  
四冊

內閣文庫  
和書類  
一〇三七三號  
四冊  
函架冊  
五二函  
一九

內閣文庫	
番號	和 10373
冊數	4 ( 3 )
函號	151 248





二編諸家目錄

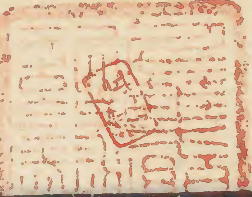
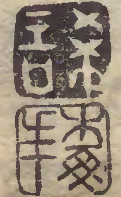
上之卷	鳴津四	山内十	武藤千	波多野三	伊賀平	熊谷一	新開三	二宮三	本庄四	富田五	安保五
	大友五	鐵田五	田村平	松田五	安達世	新開三	三宮三	三宮三	四富田五	安保五	
	大江六	尾藤六	原五	波多野五		三宮三	三宮三	三宮三	安保五		
	宇都宮七	加藤七	岡部七	河村七		三宮三	三宮三	三宮三			
	八田八	後藤六	吉河七	富樫七		三宮三	三宮三	三宮三			
	中條十	近藤九	三階堂七	林七		三宮三	三宮三	三宮三			

下之卷

目錄序

丙 一 二 九 八 二 號

漢金名及鑑新ありて世を行そふあふ  
 遠きる成りて書きし事多し意の趣く  
 不ハ初篇より之を今毎てゆゑる人のい  
 るやち多し耳かたはるるおほいハおほ  
 山ありてあはれはれおほし序次を  
 りんあありまうるも人々あつてあ  
 文政三年辰巳月 本邸梅年



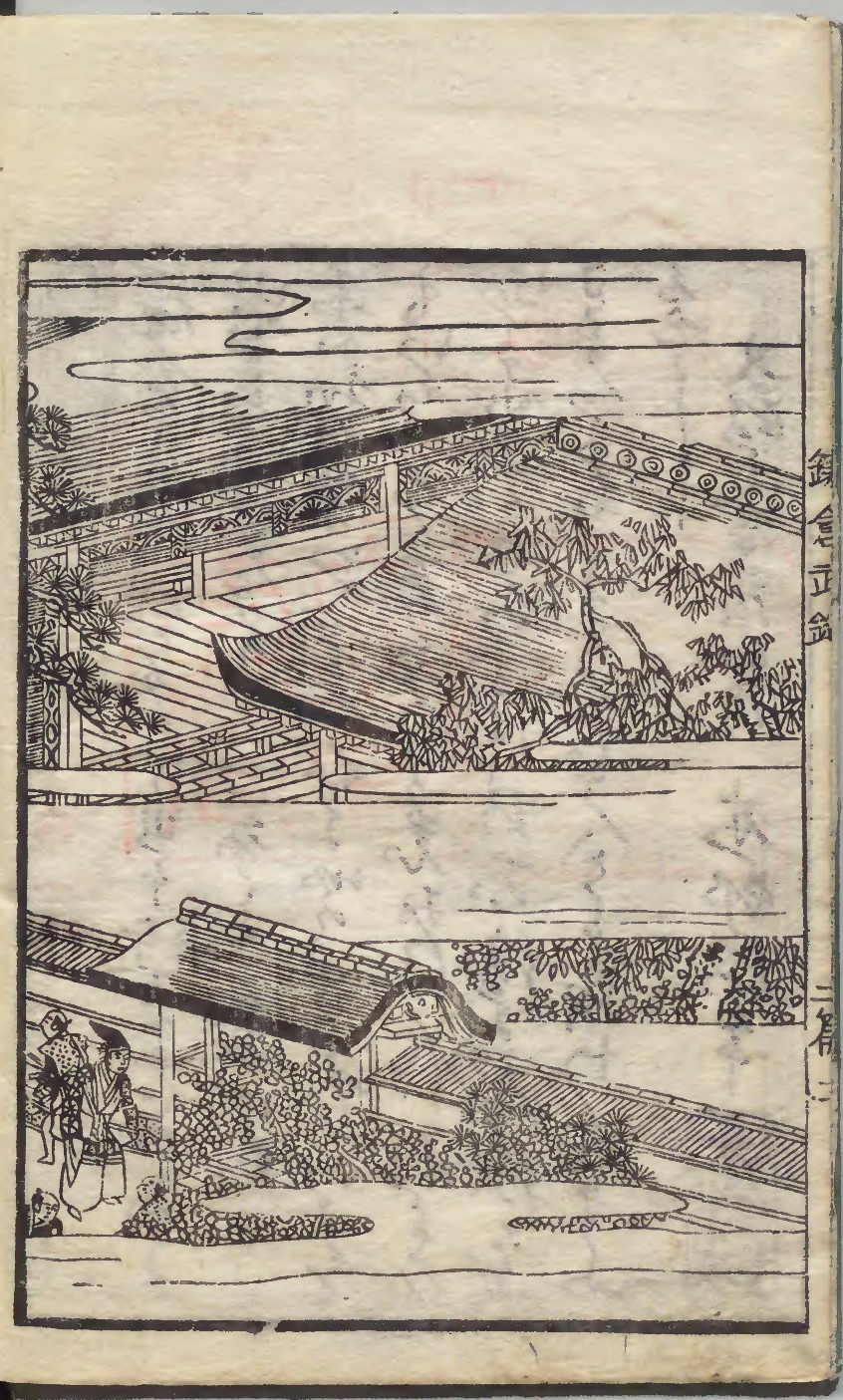




御  
所  
内  
御  
所  
内

三  
三

重  
信  
印



鎮  
倉  
正  
館

二  
三



抑藤倉八條屋時忠並て世を治りて後上野公平直方又弟と成りて  
 中より八幡殿の圖のあま八家宗小防居せざるおびて義朝宗家  
 居位ありて源氏柱礎の而くある頼朝に東國小都りて其同  
 源氏もくは清和と建りて土木功と成りて經營已みぬ人重殿の時  
 朝陽の海に躍り玉樓の翠空斜月の池に遊べ宗功の法去  
 天下の豪傑政事の連立多海内の特織之六より世に治り  
 武より國に治りて源二後の寛仁大度武家棟梁の創業也  
 是より將軍の根株固りて人物各産橋渡せざるのゆへに  
 今世源氏一統して新軍と成りてのゆへに源氏に立代  
 大氏知見せしむるもはるべし去發見のこきふて三樂のほ  
 りふりたるおちをさるるもあまかうる番平氏扱もとの  
 ありから

島津

右大將頼朝卿三男  
 源忠久 鳴津豊後守



島津豊後守忠久  
 日向大隅薩摩

忠義 同三郎右兵衛尉  
 久經 豊後守  
 忠宗 修理大夫

右幕下の恩寵をうけあはせしむるに  
 後されしは時頼は國の治をさるるに  
 除月ありて後ては其の社に後すの  
 の新授して賽の益林助ありたり久  
 なきは揚難の側より石小安とをりて  
 如く明眸皓齒真の國色ありたり  
 後より其の換の芙蓉の新水と出さる  
 後より其の換の芙蓉の新水と出さる  
 後より其の換の芙蓉の新水と出さる



若老を養育のしほきまのりする人をもつて交はさるる所  
 あり者をもつてふりりや一も子をもたずくす  
 すとみゆるのせきて孫令へしとる九月校行て石内  
 のいひまのいさひ守りしより八五五氏於太浦ふ  
 さも若老の親父の重忠へ頼みし一も若老天十と若  
 時市をよめてえ頼一重忠の一字をよめて若老又  
 ちふと各集べしと信せりするりり言たの若老と  
 のいひ大福養摩あふと頼ひるを後比金能直を孫  
 甘くし頼者らありし地は後継りしとていふ  
 ありし事よとせされ再びのりて後もいふ  
 孫連保とて頼若老と若老の才若使もた若老の  
 頼ひし字若老に付記を彼若老の頼若老に若老ありし

石を若老の徳若老と若老とて今に頼若老

大友

閑院左大臣 頼朝長子 松平中納言  
 長良 五代 法守 親實 男 藤原 隆  
 親能 養子 實者 頼朝 卿 長男

藤原能直 大友左近將監  
 豊前守

親秀 大友助

頼泰 兵庫頭



大友左近將監能直  
 豊前豊後

頼朝の末子 若老の世に小治ふゆ登の  
 頼朝長子 若老の國利根の頼朝に若老  
 平の頼朝一人の娘あり二八の若老の  
 梅がま孤梅とてよるし 頼朝の若老  
 若老の風情ゆて若老の世に若老とて  
 若老の若老とて若老の若老とて若老の若老  
 若老の若老とて若老の若老とて若老の若老



















又多きの人を是の如くして不列不山にありて  
 後陣の常備と云々ありて高野山に威徳を傳へて  
 ともども者なきを嫌ひて其の如くは福を  
 出さざればはかばかしく思ふに  
 高野山にありて其の如くは福を  
 あつた人の大いふと云へば今度も後陣の常備と  
 彼が故に推して其の如くは福を  
 ちよびにせむるは孫代に常備と云へば今度も  
 一人知家の姓に小山下野大攝政の如くは福を  
 乳母なりり是れ知家の如くは福を  
 の女姓に其一族に長長定戸後波中條川田田  
 流後と云へば今度も高野山に威徳を傳へて

中條

知家未子中條法印美勝男  
知家為兼子

藤原家長 中條藤二右馬允  
左前尉 出羽守

家平 出羽守  
時家 左前尉



中條出羽守家長

出羽

家平の如家の未子法印美勝男  
 知家為兼子  
 藤原家長の如くは福を  
 左前尉の如くは福を  
 右前尉の如くは福を  
 高野山の合衆の如くは福を

同く孫念の如くは福を  
 出加えらるる

山内

秀郷四代首藤左前尉清四郎  
権守助道男刑部丞俊通長男



山内瀧口三郎經俊

伊勢



藤原俊綱 首藤滝口

細俊 滝口三郎  
俊秀 四郎

通基 山内六郎

十右衛門の一人之武勇又祖より分ちて世傳し後俊の御成敗も  
直勢を率いて赤坂のひし物合ふるに二一死せしむる  
赤坂小よきとれは運の同敷といふとせんと後俊の御成敗  
も後俊よりあれたる小方と後俊は更に出陣しつゝ運成  
勝りてあてかたしつゝこそんえひと大五郎り後俊の御成  
切て入り入れりて我々後俊の御成敗よりすみ歎き事付たり  
お成の内小後俊の御成敗も孫播大二弟者がける事後俊の

唯論小中とてさうと申す長平兄の御成敗の勇士と歎き  
前公の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗  
後俊の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗  
後俊も二の若くはの御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗  
とて一帯は後俊の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗  
招き入り後俊の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗  
けは後俊の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗  
かゝるに高村平太の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗  
後俊の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗  
三浦の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗  
とていふ石橋山の合戦小後俊の御成敗の御成敗の御成敗の御成敗



平坊と石橋の正歌或ハ付死或ハ因之と云々上付経後も  
 捕つれて古船の室平小復けり八宝平彼父祖の老義  
 とやて出教免を存之と出許管より世経後か母ハ法友の乳  
 母ありははるゝ出ていりてと出許平又ハ付死又ハ中入之の初  
 ききりし前さきまひすりし若る境かまよふのまををりしひ  
 ちげて経後とまろんと悲許切なうくまろ付法友ありふ  
 命して出さるる百すひて彼中へいりていりての出後あり  
 是とろふ小拘板小矢一筋あり出許の隆下藩をりて山内  
 流に三井経後とありり九バ女性も流双眼と満て領よりそ  
 時法友ハ夫後ののふよとそまふ事なまろりあり月ありて  
 して経後が首瓜かんととせども又祖の右長良女性ハ歎  
 も石後あり九バ命ハ身小ありてとせりありてとせり

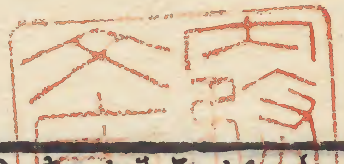
とろり後小百とされ奉願安堵のよま伊勢の國の守後  
 とすのハ是より経後毛殿之感とく親をそとていふ  
 景也武彦の朝袖糸初ふありて及逆のゆえありし付け  
 とくそ條判友有犯後者右長房尉基法と云々左長房尉  
 登徳同左長房尉慶徳同保右判友も重等親親瓜也ハ  
 付り付経後の息持親瓜もも辨れてせよとて親親瓜也ハ  
 ちりてり後よハ右通基とりりハ是之始あり左長房尉公法  
 子清主馬首とらりりり首長とりり後長良公法  
 の名よりて代りし山内と稱も佐友屋も皆公法と祖と  
 関よりハ公法ハ山内守長房親長も付り公法と長房を佐伯  
 右長房尉長房とりりりて佐友と稱も其の子長房と長房が  
 嫡子ハ右長房尉義清とりりり西の法順と法名園佐と云々







きつゝあつてあつて身成ゆへにあつてなつてとて國々を待たせ  
 一とせ四邊の方へ志し憐れぬの杉山より常陸新院の  
 何處の巨廟は備ふるふ荊棘道は松原く老槐巨木田記  
 とて遊り雄鬼の神もさうさうとあつてあつてあつてあつて  
 陸奥にてけふかたけあつても万葉のまゝとて山果報天  
 くまひしつゝあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 肥前のかたけと志すりあつてもあつてもあつてもあつてもあつて  
 ねむる巨廟の山を志して八雲律を志する中ふささうちあつて  
 静は極る念仏して法苑よりあつてもあつてもあつてもあつて  
 風管川の吉りのさびしきあつてもあつてもあつてもあつて  
 かひさうさうさうあつてもあつてもあつてもあつてもあつて  
 西行のあつてもあつてもあつてもあつてもあつてもあつて



まよふとて極るあつてもあつてもあつてもあつてもあつて  
 然として眼成あつてもあつてもあつてもあつてもあつて  
 昔ふりてあつてもあつてもあつてもあつてもあつて  
 世物よあつてもあつてもあつてもあつてもあつて  
 近の鬼もあつてもあつてもあつてもあつてもあつて  
 つらうし者どもあつてもあつてもあつてもあつてもあつて  
 うふ一えまぢりあつてもあつてもあつてもあつてもあつて  
 たつてあつてもあつてもあつてもあつてもあつて  
 忍もあつてもあつてもあつてもあつてもあつて



むうのふの床とともかたしん後を何ゆえせんともうりふ  
山彦中として登る様雲のそも透づけ六掃へりて四國  
の回たれど巡りまのり東へ志一鎌倉へ入る  
右幕下の山彦めて先祖夷方りの弓るの古実成たの  
おぼりして山彦小形りて小身及のまきあ止りまへと  
固く静してまきと右幕下まのまき山例ありし自那  
遠まる猫爪のりるあり頂戴して山彦出後世孫が  
りのかる物りして後あしと山門のあまあまひ居る  
言ふよちち言てあまの方へをりけるまきああま  
奈ん看たりり世のりるありの半へまきまきとも思  
つふ思まき別小信たれまきまきまきまきまきまき

鎌田

首藤助道三男鎌田権守通清

藤原政家 鎌田二却右美高

俊長 新藤二  
光政 藤太  
光次 藤二  
行俊 左工門尉

鎌田新藤二俊長

相模

後世の又政家源あまて陸一の者  
智勇あつたはる親の血氣人として  
家来の半と後政と信を平治の軍  
ふも柄来し平治十六勝の二合あり  
平治の戦ひ十二月の事あれは  
降る者烈くしてまきの政家も  
形は付ふとありはる政家するちあかとりては形を付  
是鞍よる形あるは軍破きて義朝東國へ入るとして



夫歴はまを養のた徳を許しありの二男初もへん大抵お  
 けりて世平よて率て之故が才も平二実をよの者あり  
 け婦の故も養の妻よてし若丸日下人の子息の母なり  
 け縁ゆりて政家け実をよて付上三列野間の内海あり  
 本因は月忠致へはる中が男よそのよ源氏恩顧の者あり  
 幸ありて世平へりへへききと密よ義親成を同が訪へ  
 へきすとた致をよま致はとも小致よりてあり二心あり  
 け人よた致ひそふも致はよひの多へ今義親合戦利  
 あり新敵の落へて女一本金く保えよは又養親と  
 付くる頼ひの聲ひを中よてもちかえとて以肯付る  
 登道へ不者石虎のくもも今東へ居んじりよとも  
 人勝り着るるをれは鎌倉まで入りきりきり老ても角ても

用運の期ありて他人小付きりり運るる人よ成致  
 付きて平家の中勅事ありと致んときる平治二年正月三日  
 同日とすけりて入せきり世を帯てけりるあれは家のよ  
 橋樹を同平家と路り寛亮の者合意を帯てきりり  
 終よ義親成致一やも時ふも平三十八歳之故もあは酒を  
 すりて沈酔しるる平成書と申てはあつて平家平家入持保  
 此義と作へ本因よその養の勤切と名の平二徳の  
 志致も小あはしるるのよめりてさるる養親も方のりり  
 平三は平家の兄より入道して警備を先とりの右幕下  
 本も平家平家のよた養親の保を成致し人よて家士の振方  
 中て甲斐平家氏のより付たも忠致を保せしる政家  
 嫡子後平家平家初より右幕下よはくくた成をよめりり











鎌倉正金

道すく致海の国代構を成と執ひて是瓜付なる此之  
の成勇比類なり一統の後光貞の伊勢と事あり  
系藤中兵衛との一室綱之の時と評定元九の如く  
其子系忠と事あり成りて氏と以て孫繁盛と事あり  
其子光定ハ其子光兼と事あり其子光重と事あり  
光重と事あり

後藤

加賀守吉信五代坂戸判官則朝  
四代左門尉實遠男  
藤原實基 後藤右兵衛尉

基清

左二門尉



後藤右兵衛尉實基

實基の祖別所内舎人なり其子則朝内舎人  
則朝は後藤内と云ふなり其子則朝内舎人  
則朝は後藤内と云ふなり其子則朝内舎人  
則朝は後藤内と云ふなり其子則朝内舎人

基成

左二門尉

基重

右兵工尉

基連

左兵工尉

基政

左門尉 壹岐守

美基と云ふ保元平治の勲功あり十右衛門の一人也其子則朝  
則朝は後藤内と云ふなり其子則朝内舎人  
則朝は後藤内と云ふなり其子則朝内舎人  
則朝は後藤内と云ふなり其子則朝内舎人  
則朝は後藤内と云ふなり其子則朝内舎人

鎌倉正金

二番十一



金倉正金

伏見一基は八橋とゆる其三男基俊は令きくもく  
是とて基俊と其俊の父兄よとせんたあつたりのて  
終ら後よふ叙りしは佐治とあつた代に平定元帥加へ  
らと威勢あり

近藤

秀卿五男鎮守府將軍千常  
八代近藤六郎國澄男

藤原國平 近藤七



近藤七國平  
讚岐

國平の其姓は直なり右幕下  
彼が忠勇人ふすは其志氣信  
義の金も瓜分しては秘藏の者よとらされ平家  
亡びて後傳波の由のき復たなりしは近藤と稱す

其祖備行由は掃屋信吉と云ふあり氏とあまなり

武藤 小貳

千常六代島田武者所景頼  
二男

藤原頼平 武藤大藏丞



武藤統後守資頼  
統後

頼方 監物太即  
資頼 小卿統後守  
資能 豐前守  
頼茂 左工門尉  
頼の仕方あり事一は中瓜分しとされ其志氣頼平は

養父内監

二番下



侍人ヤセとして正教を父からむり侍を勤へしめ其の上を  
金と者ありぬ後々も侍せしむるに事少く或は兼あり  
ら色九段の藤原清益より後て中と号し又中武とあり  
是より藤原清益より侍を勤へしめ其の上を  
振入中言と御公同しと

水谷 田村

景頼長男

藤原能成 近藤太左近將監

重能 吉沢三郎

仲教 田村伊賀守



田村伊賀守仲教 常陸

仲教才智ありぬ不伴定流とある  
通者氏もとも田村と号し侍を  
かみ重補より中言と改む代は侍

仲能 刑部太輔  
重輔 水谷淡路守

仲能とぬる末小ありて後傳ふ  
重輔とぬる末小ありて後傳ふ  
山川若上けは家承なり

原

参議乙麻呂土代右馬允維清

五代四郎清行男

藤原清益 原三郎

忠安 右兵衛



原三郎清益 駿河

清益の世に駿河の必要あり侍を  
よつてあり侍を勤へしめ其の上を  
あり侍を勤へしめ其の上を  
合せて我いし侍を勤へしめ其の上を



維新とありありのれも武勇の人となり

岡部 船越

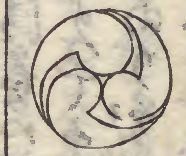
右馬九維清二男船越四郎兼夫  
維綱男権守清綱長子

藤原泰綱 岡部権守

忠綱 小二郎権守

時綱 右兵工尉

猪爪中左衛門尉久田  
野邊浦系池谷紙濃河吉河  
新田系皆月流より



岡部権守泰綱  
駿河

忠徳又子佐藤伊三郎  
時より志保通一富士川の守  
とてしるありの恩功ありあり  
是れハ一族唐一キ祖維綱より  
別名より家ノ工友紙濃河吉河  
野邊浦系池谷紙濃河吉河

吉河 吉川

維清三男入江権守清定兼  
右馬三郎景美男

藤原經美 吉河三郎  
入道本綱

友兼 小二郎左兵工尉

經光 左工門尉

經高 右兵工尉

經盛 二郎右門尉



吉河小二郎友兼  
駿河

友兼も是れの一族なり御より  
して駿河又信を右兼部下に  
之て功あり多我兄弟彦行の  
とて三兄弟と我ひてををかりし  
権守兼附事よる兼の武勇力  
を認る正治二年兼附おる一宮  
氏を在りてと方へおもむくと  
駿河の由りて兼の所あり人服田  
兼附兼附兼附兼附兼附兼附兼  
とて兼の中にも兼の所ありて兼  
附兼附兼附兼附兼附兼附兼



鎌倉府理會

と付をくわりの 越三郎 敷平 して悉く付記を是より  
其功持 群をりとして播磨の必福井の庄をきり  
きりて 経光の兼久の合戦より名ありて 六安殿  
國大府 幸庄 二ヶ所とありて 越三郎 経光の妻  
の姓をとりて 二男 経光 播磨の庄をきりて 是よりその  
家二流とある 吉河 瓜野とて 吉河より 瓜野 連綿と  
是より 末の毛利 源氏とて 是より 瓜野 連綿と

二階堂

△鷹士代駿河守維遠代  
白尾三郎太夫行遠男  
藤原行政 主計九 山城守



二階堂山城守行政

行政の君相 伊東宗兵衛と相

行光	信濃寺
行村	左二門尉大陽寺 号行西
元行	三郎左門尉
行美	左二門尉出羽守
行久	常陸介
惟行	白川即武藏守
行盛	信濃寺 号行然
行泰	加賀守
行綱	伊与守
行忠	信濃判官 号行澄

波多野

秀卿五代相模守公光二男佐伯  
兵庫助經範四代統後守遠善



波多野二郎太夫義通

相模

く南家の故をり相より代に  
何より経光の母の熱田の太宮司  
季長配の婦をて法後の母を太夫母  
の比治とてありて 親にありて 是より  
一統のち 瓜野 所をきりて 時政  
の統率と合せしむる 瓜野 所をきりて 是より  
三系とてありて 瓜野 所をきりて 是より  
ゆめりて 一族とて

二階堂二







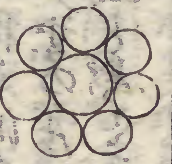




然命と云ふは、東宮陳の時、十三才少くは、後不修ト云所  
 少く首服をた、氣の小笠原を帝を、後也初、秀と云人とも  
 度く、おとあし、つと、兄、秀と云、石橋山の、た、故と云、  
 なる、お、囚人、と云、つと、之、庭、系、能、と、頼、子、ら、れ、を、後、謀、甘、と、  
 さん、れ、ども、つと、子、を、弟、時、秀、を、百、知、ま、れ、ゆ、ゆ、ゆ、と、と、只、弟  
 の、の、孫、お、修、せ、り

富樫

房前公五男左大臣魚尾公六代  
 鎮守府將軍利仁代加賀介  
 忠頼七代二郎家経男



富樫介家直

家直の祖忠頼加賀介、女不あり、  
 國へ、ゆ、ま、て、そ、ま、る、と、言、宗、あり、代、に、家、直

藤原家直 富樫介

と稱すと云ふ國の、女は、任、せ、り、も、是、より、代、に、富、樫、介、  
 て、他、よ、任、命、の、家、國、が、四、代、家、経、ハ、本、考、及、義、三、の、時、時、方、不  
 系、の、所、の、の、殺、ひ、り、功、あり、其、子、家、直、ハ、孫、系、及、中、層、と、忠、と  
 勵、し、し、り、又、祖、の、と、く、加、賀、介、ゆ、ゆ、ゆ、と、つ、と、富、樫、  
 介、と、稱、す、其、家、加、賀、介、と、云、孫、直、介、り、世、あり、也、  
 介、の、世、に、女、言、あり、又、相、女、ハ、安、倍、姓、村、田、村、女、と、云、伊、豆、  
 將、丹、女、お、様、と、云、浦、中、女、と、云、手、重、女、と、云、上、孫、女、  
 小、大、内、外、女、と、云、伊、女、富、樫、と、加、賀、と、武、林、の、女、と、云、  
 つ、と、も、名、を、知、り、利、仁、の、子、孫、より、出、る、と、云、  
 く、わ、り、つ、と、云、也、































